

論文審査の結果の要旨

氏名 キッティポンヴィセス スッティラット

気候変動のような地球環境全体に関わる問題は、21世紀における重大な問題であるにもかかわらず、一般の市民レベルの認識やそこへの積極的な関わりはきわめて限られている。本論文は、**PSYCHOLOGICAL AND SOCIO-CULTURAL FACTORS INFLUENCING PUBLIC PERCEPTION AND ENGAGEMENT WITH CLIMATE CHANGE: THAILAND AS A CASE STUDY**（気候変動に対する認識および積極的関わりに影響を与える社会心理学的・社会文化的要因：タイ国を事例として）と題し、論文提出者の出身国であるタイ国において、質問票・面接調査に基づき、気候変動への認識や関わりを規定する要因としてどのようなものがあるかを検討している。

本論文は5章からなり、1章は「**INTRODUCTION**」であり、研究の背景・目的について述べられている。2章は「**REVIEW OF LITERATURE**」であり、気候変動の防止策・適応策についての現状、気候変動の認知や対応行動に対する心理的・社会的要因について既存の研究をレビューし、また調査対象であるタイ国およびその気候変動に関する現状をまとめている。

3章は「**SURVEY STUDY 1: NAKHON RATCHASIMA PROVINCE, THAILAND**」であり、本論文で扱った3つのケーススタディのうち中心となる **Nakhon Ratchasima Province** における調査結果を記載している。まず、対象地域の概要、フィールド調査・面接・質問票などのデータ収集の方法、それらのデータに対して用いた統計解析・クラスター分析の方法などについて記述した後、タイの産業の中心である農業を主要産業とするこの地域において253世帯からの質問票回収により主として農民の気候変動への認識を調査した結果について述べている。「どうせみんな死ぬのだから何をやっても同じ」といった運命論や、「自分一人がなにかやっても世の中は変わらない」という無力感が原因となって気候変動に向き合おうとしないという特性が相関分析から強く示唆された。さらに、クラスター分析の結果、上記のような運命論・無力感に支配されているクラスターに対して、気候変動に強い関心を持ちつつも情報のなさ・あいまいさに不安を抱いているクラスターの存在も明らかになった。これらの結果をもとに、無力感に基づく気候変動への無関心はタイの精神的・文化的な土壌を強く反映しているとしている。また、個人属性と気候変動への理解の関係を考察し、教育レベルは低い人のほうが実体験に基づき気候変動についてより関心を持っていることなどを示した。さらに、気候変動への理解に対するこのような障壁を乗り越えるために必要な方策について提言している。

4章は「SURVEY STUDIES 2 AND 3: BANGKOK METROPOLITAN REGION, THAILAND」と題し、上記の調査結果を補強するためおこなった2つのケースステディについて記載している。1つは、2011年にバンコクにおいて起こった大洪水を対象として実施したWEB上でのアンケート調査、もう一つはバンコク郊外で洪水の影響を大きく受けた Pathum Thani 地区で実施した気候変動に関する路上聞き取り調査である。サンプルの代表性に問題があり母集団のバイアスは避けられないものの、タイ人の危機に対する認識や対応の仕方に関して、ここでも「無力感」に強く支配される傾向が見られ、上記の農村での調査を裏付ける結果となった。

5章は「CONCLUSIONS」であり、本研究で得られた結果をまとめている。

以上のように、本論文は、気候変動に対するタイ人の無関心さの心理学的・社会的要因を実証的に説明することにより、気候変動に関するタイ国内のプロモーション政策を今後考えてゆくための基礎的情報を提供するものである。とくに丁寧にとられた一次データ（質問票回答）の持つ価値は大きい。

なお、本論文の3章・4章は、味埜俊との共同研究であるが、論文提出者が主体となって分析および検証をおこなったもので、論文提出者の寄与が十分であると判断する。

よって、博士（サステイナビリティ学）の学位を授与できると認める。

以上 1,794 字